教育かわら版

# こんにちは教育委員です ふたたび

No.１４１
令和元年１２月２６日発行
今金町教育委員の会

教育長を仰せつかって半年が過ぎようとしています。町には白い使者が訪れ、夜も明るく見える季節となりました。季節のイメージは住んでいるところで違うもので、北海道以外の方々は、冬イコール極寒という感覚が強いようですが、北海道の人にとっては、ぽかぽかした家から見る、夜でも明るい外の景色が印象にあるという話を聞いたことがあります。実は私もそうです。

師走も押し詰まってきました。令和で迎える初めてのお正月。皆様にとって希望の春へと続きますことを願ってやみません。



## 教育かわら版について

これまで私は、その時々の立ち位置で「校長室だより」とか「指導監だより」など書いてまいりました。

思いはただ一つ。組織や職員のいいところを見つけて文章で表現したい。紹介したい。

そのようなわけで、この後、不定期にはなりますが教育委員会ホームページ上で、学校、関係機関、職員の頑張りの様子、目にした子どもたちの姿などを紹介させていただこうと思います。

教育委員会からはすでに生涯学習情報誌『いまナビ』、図書室だより『来ぶらり』が出ております。もちろん町の『広報いまかね』もございます。そこであまり触れないようなことや、視点から記事を出せればよいかと考えております。他の４名の教育委員さんにも原稿をお願いしたいと思っているところです。

ところで、なぜ最初のかわら版が１４１号なのか。

それはホームページ上にあるように、前任（現中島副町長）が残された続きを書かせていただこう･･･ということです。だから、「ふたたび」。

紙面のデザインのグレードは今のところ及びませんが、これから徐々に･･･と考えております。



## 教育長のつぶやき

今金中学校が道教委の道徳教育研究指定校になっています。

新しく「特別の教科」となった道徳。評価を含めて、授業をどう進めていくかという研究です。公開研究会は令和２年の２月１４日（金）。楽しみです。

ところで、この頃、親世代の方から「うちの子はわがままで･･･」という言葉を耳にすることを、私はほとんど経験しなくなった気がします。もっとも以前は、その「わがまま」という言葉の次によく「甘やかされて育ったから」という続きを耳にすることが多かった。自分は大人になって教職についていく中で、実は愛情不足だからわがままなんじゃないかなあ、とも考えるようになりました。だからそういう意味では、「わがままなんで」を耳にしなくなったのは良いことなのかもしれませんが。

一方で今、「我慢しない人」「言うことは言わせてもらいます」というスタンスの人が世の中に増えてきた気もします。そういう方にとっては、ある意味、わがままという概念は存在しないのかもしれません。

本音を出すこと。一見ストレスも溜まらず、良いことのように感じます。ただ、それはそれでどうなのかな、自己中心的、エゴイズムといったことにつながることはないかな。そう感じもします。

『道徳教育の意義は、「本音で考える」でなく、「本気になって考える」「本当のことを考える」こと。そこにある』という文章を目にしたことがあります。

今金の子どもたちがずっと、今のように優しく規律正しい人間でありますように。それは我々大人の、親の背中で涵養していくことでもあると考えています。道徳の時間はそのきっかけに。